

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年7月3日（金）

2 確認箇所

- ・増設雑固体廃棄物焼却設備（図1）
- ・6号機原子炉建屋（図1）

3 確認項目

- （1）増設雑固体廃棄物焼却設備の状況
- （2）6号機新燃料の保管状況

4 確認結果の概要

（1）増設雑固体廃棄物焼却設備の状況

東京電力では、令和6年2月に発生した増設雑固体廃棄物焼却設備の廃棄物貯留ピット（以下「ピット」という。）における伐採木チップからの水蒸気・ガス発生及び火報発報事案を受け、ピット内のチップ及び水を回収するとともに、原状復旧や再発防止対策の工事を実施している。

これまでに、令和6年12月にチップ・水の回収が完了し、令和8年4月には原状復旧工事が完了したことから、今回、原状復旧工事等の実施状況に加え、現在進められている再発防止対策工事の状況を確認した。（図2）（前回確認：[令和8年5月19日](#)）

- ・ピット内に散水した水の回収に使用する汚水回収設備が設置されており、現地確認時はピット内に小型のプールが設置され、ポンプの試運転が行われていた。試運転は作業員同士で声を掛け合いながら、安全に配慮して実施されていた。（写真1）
- ・廃棄物の大量保管を抑制するため、ピットに仕切り壁が設置されており、保管容量が適正となる対策がとられていた。（写真2）
- ・廃棄物回収エリアの拡張を目的とした、クレーンの可動範囲を広げる工事の準備が進められていた。（写真3）
- ・ピットに保管された伐採木チップの温度を監視するためのサーモカメラが設置されていた。（写真4）
- ・設備内における水蒸気及びガスの滞留を低減するため、ダクトが更新されていた。（写真5）
- ・灰詰まり防止対策として、焼却灰をコンテナに充填する設備の改修工事が進められていた。（写真6）
- ・東京電力によれば、8月からの再稼働に向けて、引き続き、再発防止対策工事や設備全体の点検作業等を実施していく、とのことであった。

(2) 6号機新燃料の保管状況

東京電力では、中長期ロードマップの目標である令和13年内の1～6号機の燃料取り出し完了に向け、各号機で順次燃料の取り出しを実施している。

6号機においては、使用済燃料プール（以下「SFP」という。）に貯蔵されていた使用済燃料全1456体の共用プールへの移送が完了し、現在は新燃料^{※1}（SFP：180体、新燃料貯蔵庫：218体（令和8年7月3日現在））が保管されている。

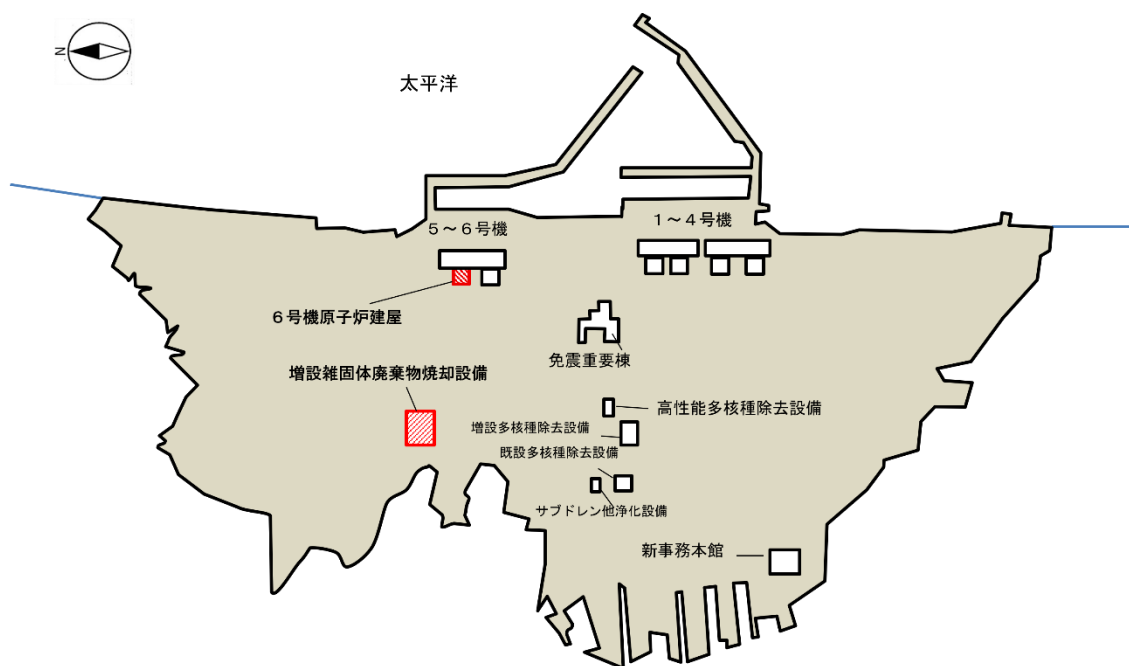
東京電力は、新燃料については順次所外へ移送する方針としており、このうち米国製新燃料は製造元であるアメリカへの輸送が予定されている。

今回は、それら新燃料の保管状況を確認した。（前回確認：令和7年7月28日）

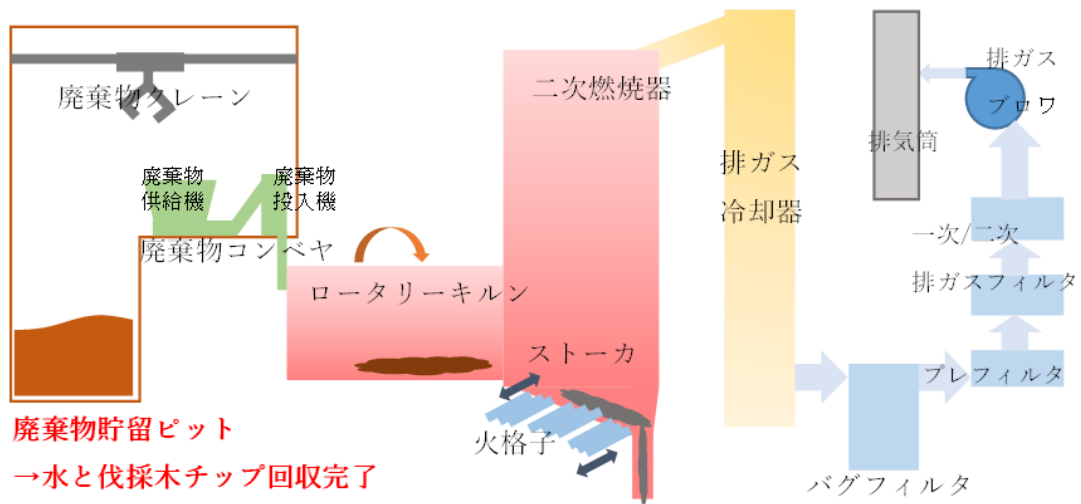
- ・SFPのプール水はオーバーフロー水位^{※2}付近にあり、水面に異物等は確認されなかった。また、周囲に水の漏えい等は認められなかった。（写真7）
- ・新燃料貯蔵庫の蓋は閉じられており、貯蔵庫やその周辺に異常は認められなかった。（写真8）

※1 新燃料：未使用の燃料。使用済燃料に比べて放射線量が極めて低く、人が接近して取り扱うことが可能。熱が発生しないことから、プール等での冷却も不要。

※2 オーバーフロー水位：使用済燃料プールにおいて、冷却系が適切に運転している状態を示す基準水位。この水位を超えてオーバーフローした水は、スキマサージタンクに流入し、熱交換器やろ過器を通過したのち、再びSFPへ戻される。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



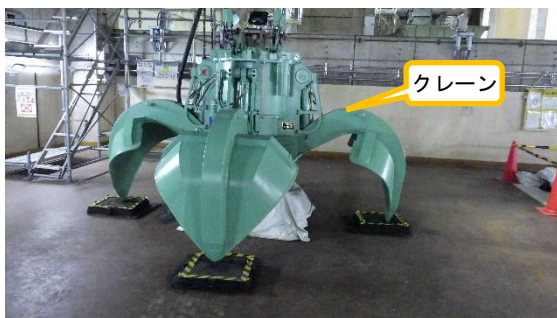
(図2) 増設雑固体廃棄物焼却設備の模式図 (東京電力資料を参考に作成)



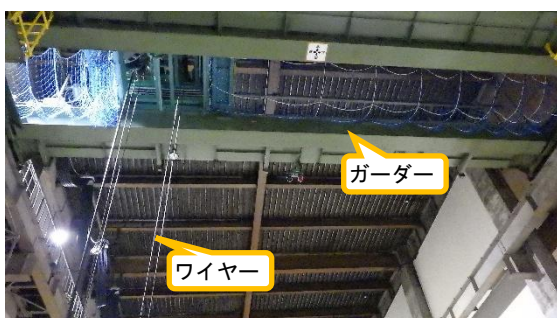
(写真1)
ポンプの試運転の状況



(写真2)
ピットに設置された仕切り壁の状況



(写真 3 - 1)
廃棄物回収のためのクレーンの状況



(写真 3 - 2)
廃棄物回収のためのクレーンの状況



(写真 4)
温度監視のためのサーモカメラの設置状況



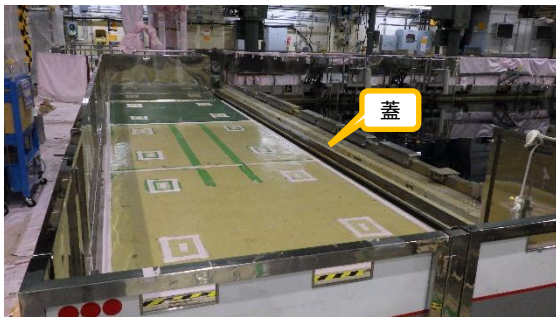
(写真 5)
換気のためのダクトの設置状況



(写真 6)
焼却灰をコンテナに充填する設備の
状況



(写真 7)
6号機使用済燃料プールの状況



(写真 8)
6号機新燃料貯蔵庫の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。